

ト93-1として出版されている。

4. 国内レベル

文部省によるIGBP研究は1992年度より5年計画で開始された。PAGES 関連には次の3課題がある。

- (1) 西太平洋における海洋堆積物の分析
- (2) モンスーンアジア地域及び日本の古環境変遷
- (3) 歴史天候データベースの作成分析

これらの成果の発表会は、1993年1月と1994年1月に名古屋大学で開催された。また、1994年1月に東京大学海洋研究所で行われたシンポジウム“わが国における古海洋学の発展”ではIGBP 海底

コアの研究成果が発表された。PAGES に関係したより詳しい内容については、松本英二(1991, 1993a, b)を参照されたい。

文 献

- 松本英二(1991)：古環境国際共同研究計画の動向。地質ニュース, 445, 25-29.
- 松本英二(1993a)：気候と海面変化, 地球科学, 47, 281-287.
- 松本英二(1993b)：IGBP-PAGESにおける湖沼堆積物の役割。地質学論集, 39, 1-6.

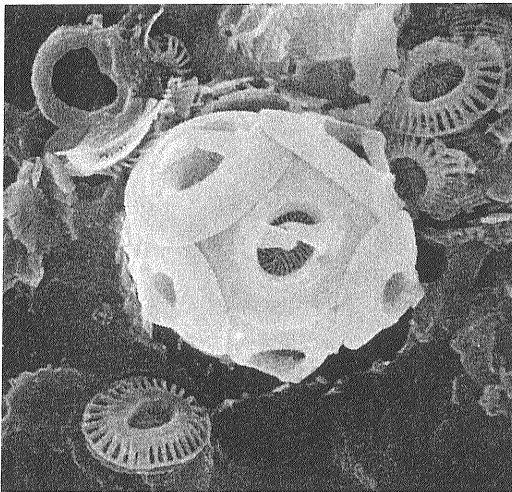
Matsumoto Eiji (1994) : Recent activities on the PAGES (Past Global Changes)

〈受付：1994年1月24日〉

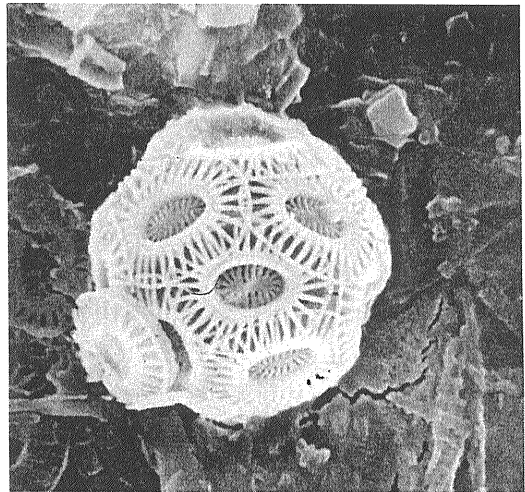
微化石の素顔

円石藻は石灰質の殻をもつ植物プランクトンである

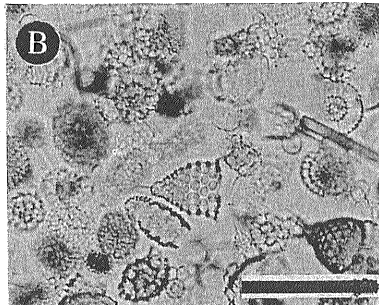
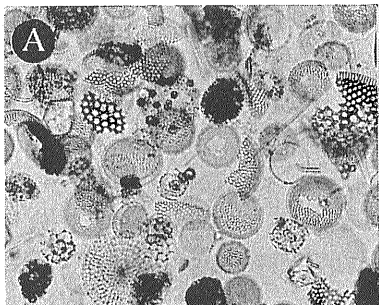
(田中裕一郎氏提供)



Gephyrocapsa oceanica Kamptner. ×8,400



Emiliana huxleyi (Lohmann) Hay and Mohler. ×10,000



光学顕微鏡で観察した珪質堆積物。(A)珪藻,(B)放射虫,(A),(B)はそれぞれ北太平洋の46°N, 175°E, 水深5317 m および33°N, 175°E, 水深4633 mの地点で採取された。図中のバーは0.2 mmである。(本山 功氏提供)